

そうか有名なのか

寝ながら、今日の事を思い出していた。

はっきりに、八幡と聞いた、八幡だ。

八幡の町には小さい時から、

僕はいろいろな印象に残っていることがある。

まだ、三、四歳の頃、八幡の遊泳場へ行った時だ。

人がたくさんガヤガヤと泳いだり水浴びしている場所を避け、

僕は一人で、国道橋の下流の人の気の少ない方へ

ふらりと、ふらりと、川の中に足をつけたまま歩いた。

五、六人小さい子が浮輪をもって水浴びしているところへ近づいた。

そこは流れが早くて、僕の小さい体では、流されても不思議ではなかった。

体をしっかりさせながら歩いたが、急に深みになり、

そのまま、流される方向に、ぶくぶくと目の上まで水をかぶった。

自分がおぼれているという恐怖感を感じる歳でもなかった。

そのまま頭の上だけ水面に出し、困った、困ったと感じる様になり、

両手をあげて、アップ、アップし出した。

その時、ぐいっと僕の手をひっぱり上げてくれた女の人があった。

口から水をはいて、目をこすってまわりを見ると、

まわりで、そばの子供たちがじっと僕に注目していた。

僕はそのまま苦しそうに、もと来た方向に戻った。

家の近所の人に見つけられ、肩車されて、

お母ちゃんやおおばのいるところへ戻れて、ほっとした。

皆、必死に僕を捜していた様だった。

あの時、おぼれていたらと、今思うとひんやりする。

僕に取って、八幡は神秘的で、何か引きつけられる感じがする。